

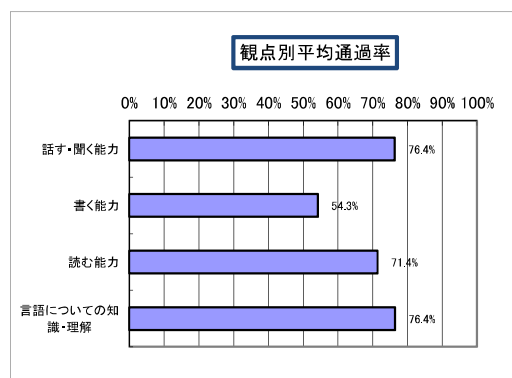
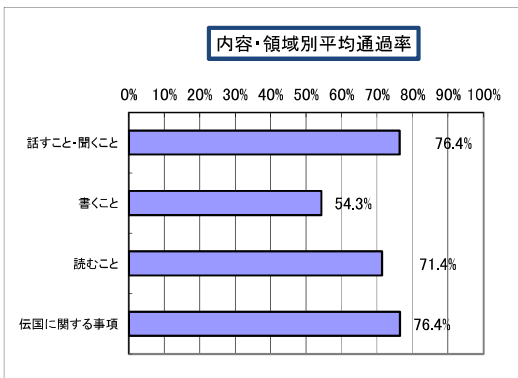
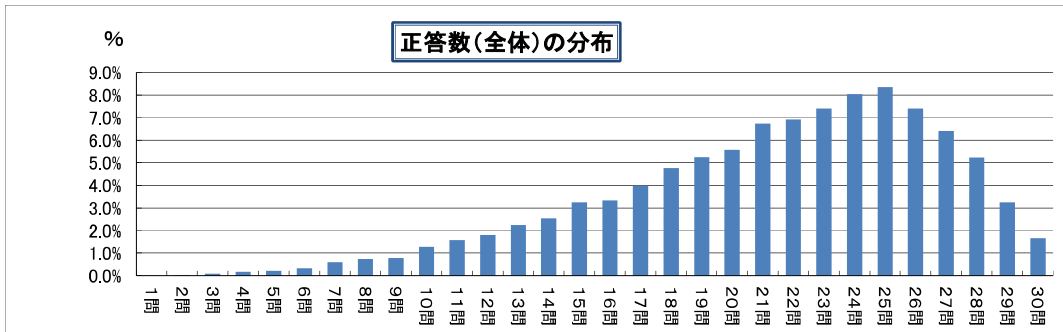
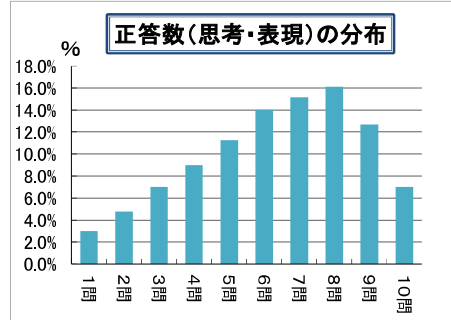
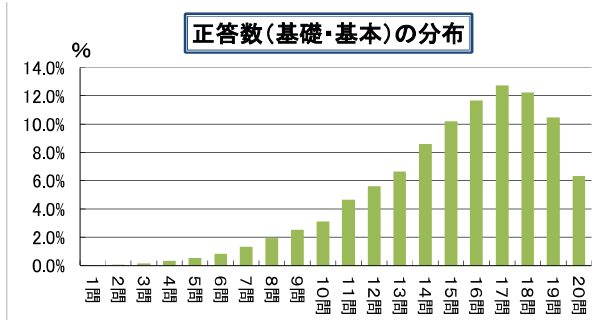
### 3 各教科の平均通過率と受検者の正答数分布（県全体）

#### (1) 【国語】

##### 小学校第5学年【国語】

学年別平均通過率

|       | 小5    | 中1    | 中2    |
|-------|-------|-------|-------|
| 基礎・基本 | 75.8% | 73.6% | 65.6% |
| 思考・表現 | 61.1% | 59.3% | 53.0% |
| 全体    | 70.9% | 67.8% | 61.7% |



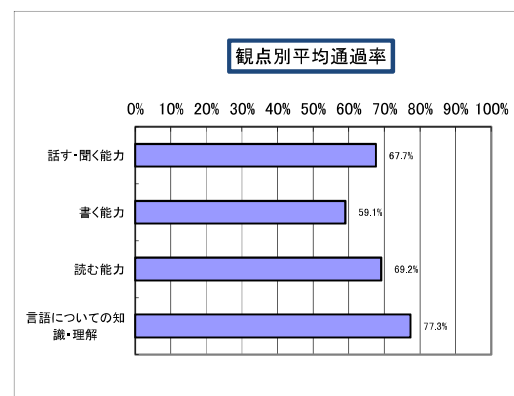
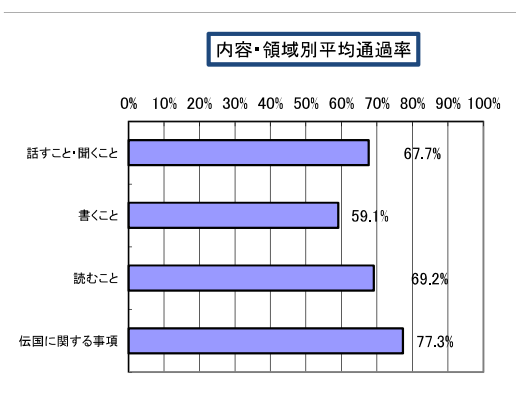
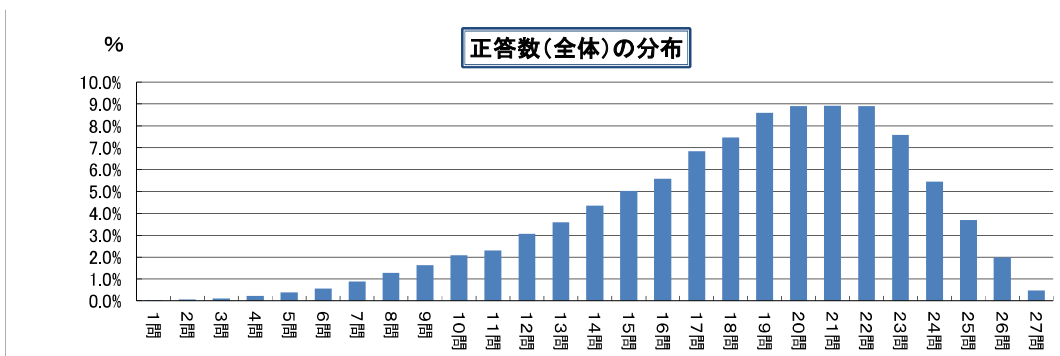
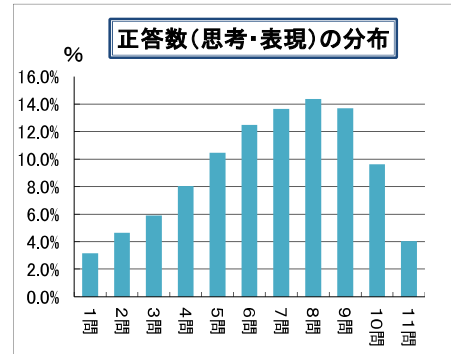
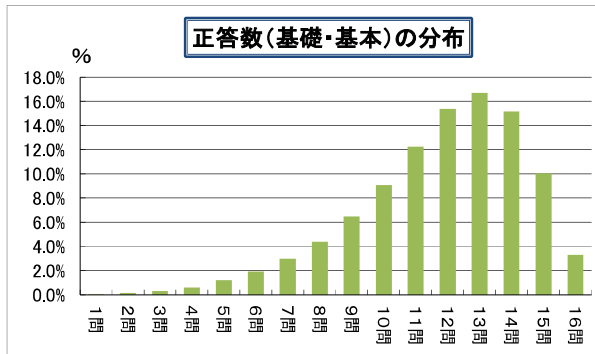
#### 小学校第5学年

- 「基礎・基本」については、平均通過率は75.8%であり概ね定着が図られているが、日常使われている簡単な単語についてローマ字で読んだり書いたりする問題や、文章中から大事な言葉を抜き出したり、目的や意図に応じて書く事柄を収集したりすることに課題が見られる。
- 「思考・表現」については、平均通過率は61.1%であり、定着が図られている。特に、無解答率が昨年度と比べると大きく減少している。自分の意見や考えを分かりやすく伝えるために、根拠となる情報を、適切な表現を用いて書くことに課題がある。
- 言語活動を通して指導事項を定着させる授業改善が確実に進みつつある。今後は、表現の効果などを実際に確認させながら目的や意図に応じた表現を工夫する学習を通して、より分かりやすく相手に意見を伝える力を伸ばしていきたい。

中学校第1学年【国語】

学年別平均通過率

|       | 小5    | 中1           | 中2    |
|-------|-------|--------------|-------|
| 基礎・基本 | 75.8% | <b>73.6%</b> | 65.6% |
| 思考・表現 | 61.1% | <b>59.3%</b> | 53.0% |
| 全体    | 70.9% | <b>67.8%</b> | 61.7% |



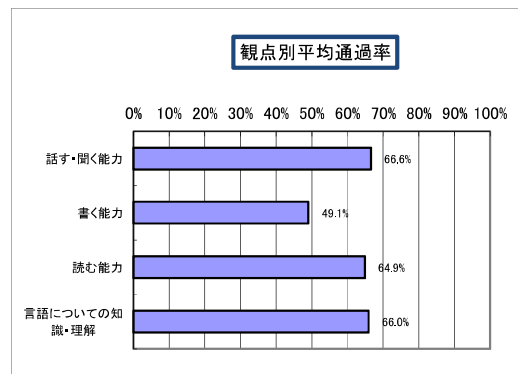
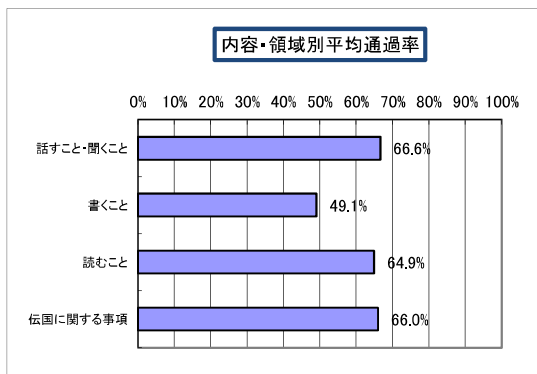
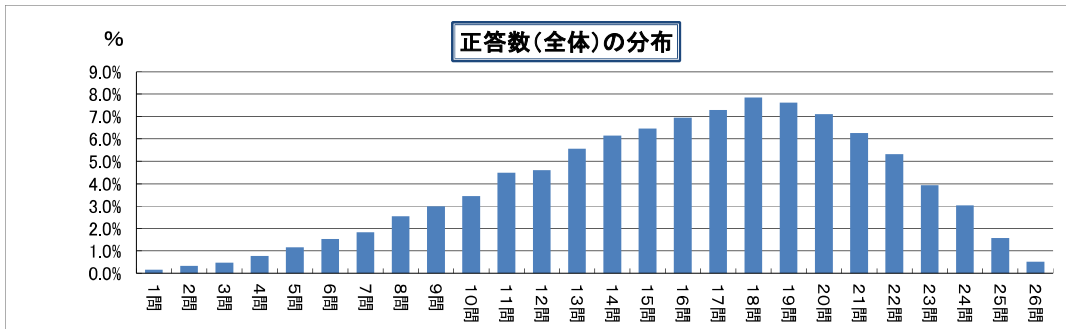
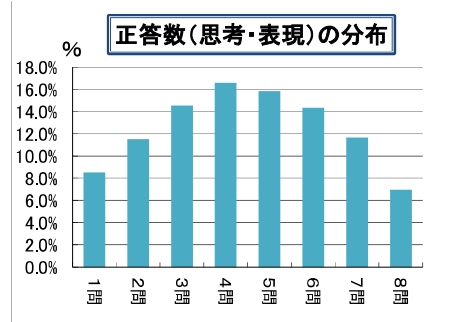
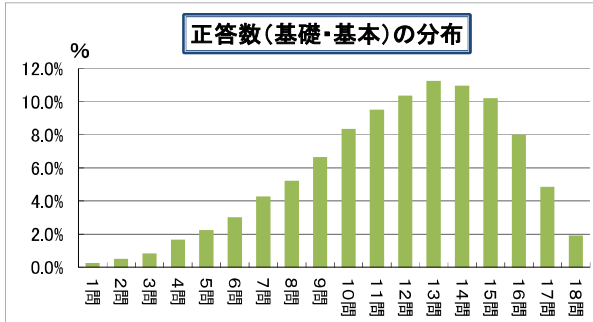
中学校第1学年

- 「基礎・基本」については、平均通過率は73.6%であり、概ね定着が図られているが、文章の構成や展開の工夫を理解し、内容や要旨を的確に捉えることなど「読むこと」に課題がある。また、出題の意図を踏まえた解答ができるように問題を正確に読むことも重要である。
- 「思考・表現」については、平均通過率は59.3%であり、定着が図られているが、目的や意図に応じて情報を分類したり、整理したりしながら表現の工夫をして書くことに課題がある。
- 生徒自らが課題解決を目指して、身の回りの話題について対話や討論を行ったり、図表などを用いて説明や記録の文章を書いたりするなどの言語活動を工夫し、その過程の中で基礎・基本の定着が図られるような単元構成の工夫が必要である。

中学校第2学年【国語】

学年別平均通過率

|       | 小5    | 中1    | 中2    |
|-------|-------|-------|-------|
| 基礎・基本 | 75.8% | 73.6% | 65.6% |
| 思考・表現 | 61.1% | 59.3% | 53.0% |
| 全体    | 70.9% | 67.8% | 61.7% |



中学校第2学年

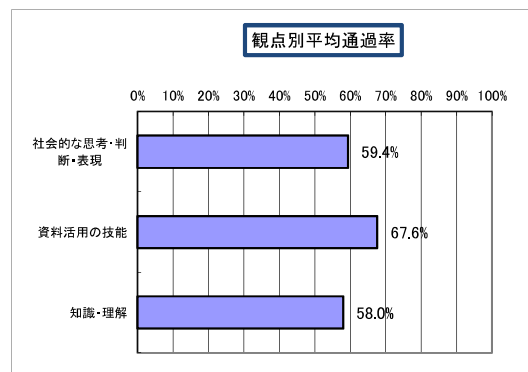
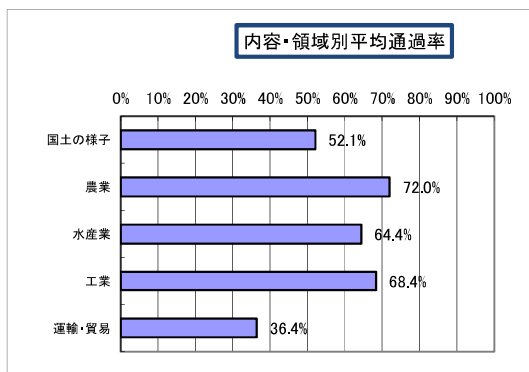
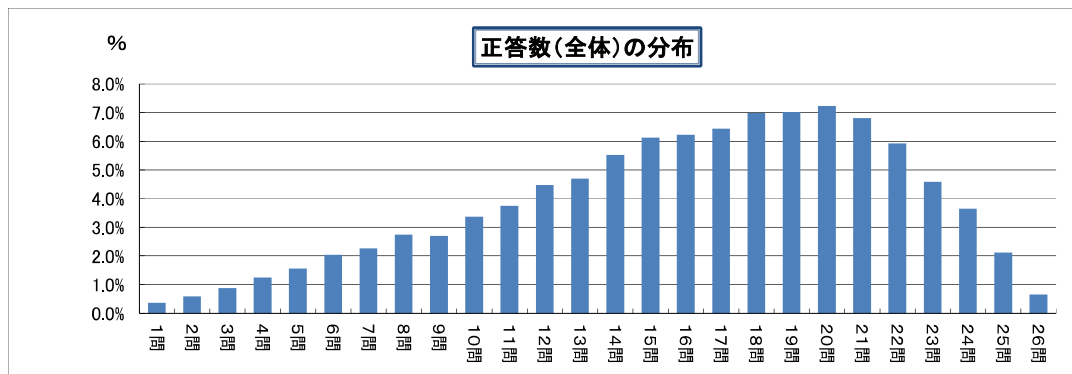
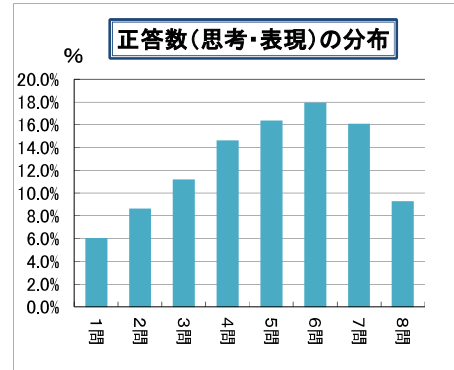
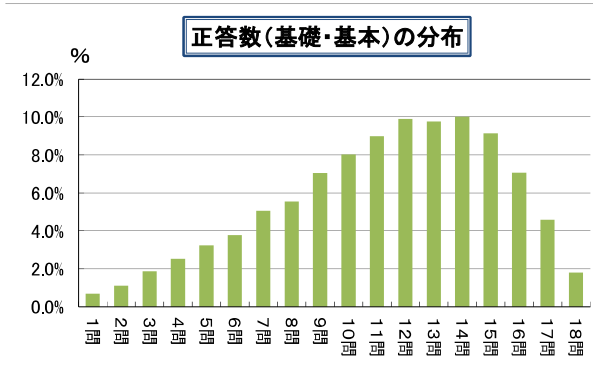
- 「基礎・基本」については、平均通過率は65.6%であり、十分定着が図られているとは言えない。特に「読むこと」において行動描写から人物の心情を把握すること、文章構成を捉えたり、事実と意見を読み分けたりしながら正確に筆者の考えをつかむことに課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率は53.0%であり、概ね定着しているが、他学年に比べ無解答率が高くなっている。無解答が多かったのは、解答のための時間が不足したのか、記述の仕方が分からなかったのかなど自校の生徒の実態を正確に把握し、実態に応じた指導が求められる。
- 相手に分かりやすく伝えたり、説得力のある文章を書いたりするために、図表やグラフなどを根拠として示しながら書いたり、文章構成の工夫をしたりする学習を繰り返すことが必要である。また、学習活動の中で自分の表現について振り返らせる場面も設定していきたい。

(2) 【社会】

小学校第5学年【社会】

学年別平均通過率

|       | 小5    | 中1    | 中2    |
|-------|-------|-------|-------|
| 基礎・基本 | 62.3% | 64.8% | 57.4% |
| 思考・表現 | 59.4% | 40.3% | 38.9% |
| 全体    | 61.4% | 57.5% | 51.9% |



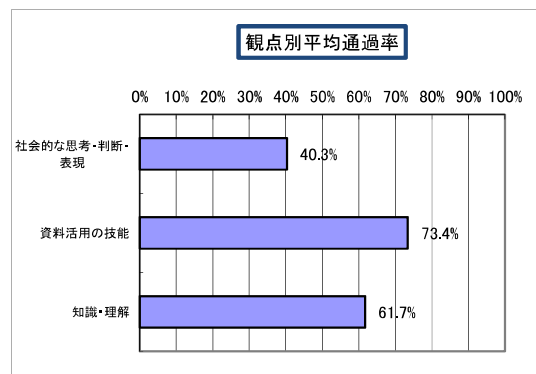
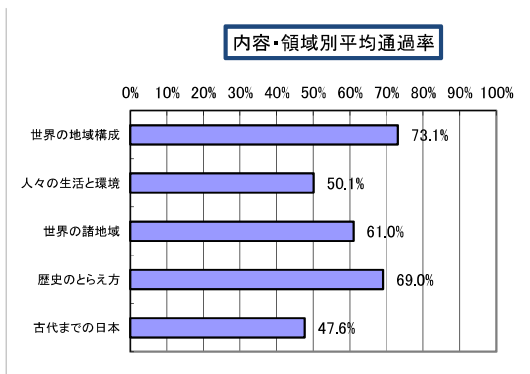
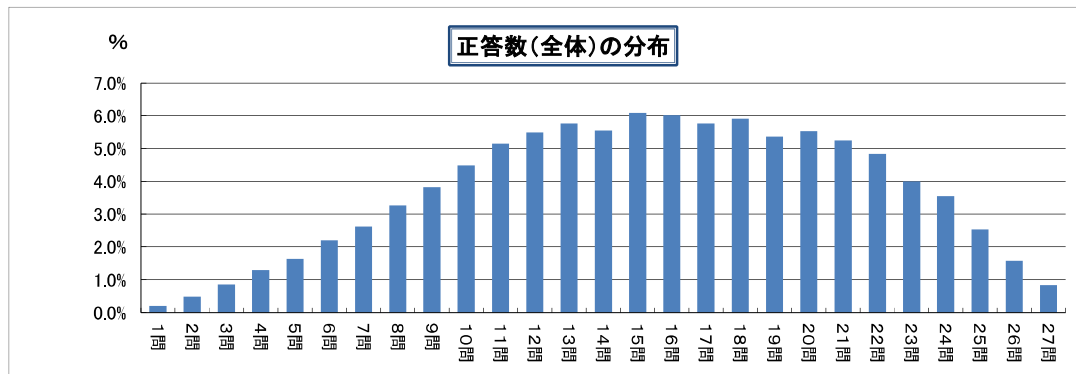
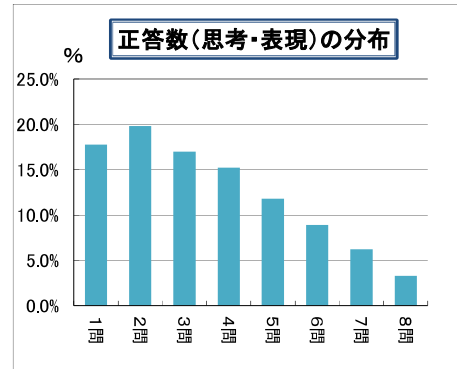
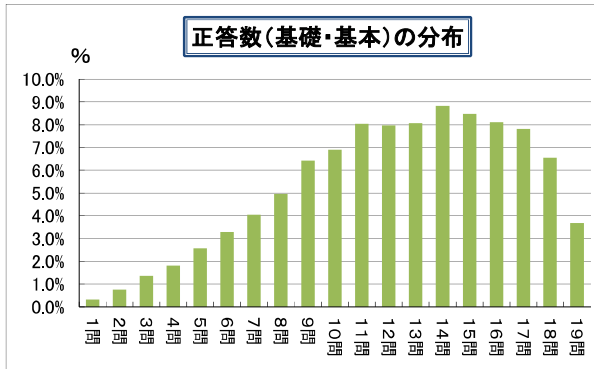
小学校第5学年

- 「基礎・基本」については平均通過率が 62.3%で、定着は十分ではない。国土の地形の概要や地図を活用して周囲の国々との位置関係を答えるなど、国土の様子に関する問題、米作りがさかんな地方や果物の自給率を資料から読み取って答える問題で課題が見られる。
- 「思考・表現」については平均通過率が 59.4%で、概ね定着が図られている。無解答率が高い問題でも 8.8%と、各学校の取組の成果がうかがえるが、貿易に関する問題は同一問題の平成 25 年度の平均通過率 53.3%に対して 49.3%で、資料を活用して記述することに課題が見られる。
- 資料を使って自分の考えをまとめたり、話し合ったりする活動の充実を図りながら、特に、資料と関連付けて説明したり、記述したりすることを意識させたい。その際、教師の適切な問いにより、観点を明確にして説明・記述させることが重要である。

中学校第1学年【社会】

学年別平均通過率

|       | 小5    | 中1           | 中2    |
|-------|-------|--------------|-------|
| 基礎・基本 | 62.3% | <b>64.8%</b> | 57.4% |
| 思考・表現 | 59.4% | <b>40.3%</b> | 38.9% |
| 全体    | 61.4% | <b>57.5%</b> | 51.9% |



中学校第1学年

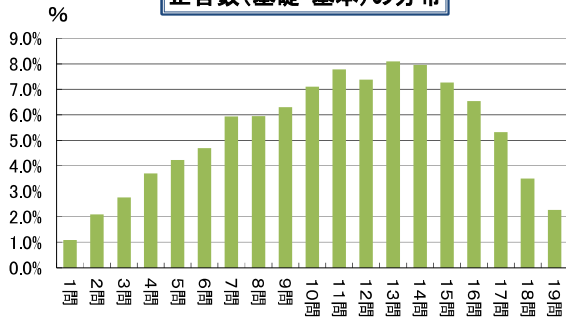
- 「基礎・基本」については平均通過率が64.8%で、定着は十分ではない。写真から気候帯やその分布を答える問題、古代の中国やアジアに関する問題等で課題が見られる。また、上野原遺跡の位置は繰り返し出題しているが、依然として平均通過率が5割に達せず課題である。
- 「思考・表現」については平均通過率が40.3%で、定着は十分ではない。重点課題とした雨温図と関連付けて気候の特色を説明する問題は、同一問題の平成26年度平均通過率19.1%に対して29.6%と向上したが、重点課題で示した熱帯雨林気候の場合の63.1%よりは低く、ある気候の特色を捉える際の見方や考え方を他の事例にも活用できるように指導する必要がある。
- 資料を活用しながら考えをまとめたり話し合ったりする活動を通して、知識・理解を深める授業をさらに重視したい。特に、資料を根拠に説明することを意識して取り組ませたい。

中学校第2学年【社会】

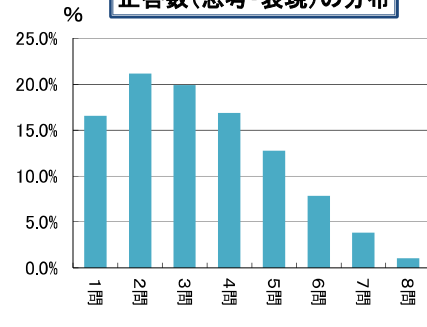
学年別平均通過率

|       | 小5    | 中1    | 中2    |
|-------|-------|-------|-------|
| 基礎・基本 | 62.3% | 64.8% | 57.4% |
| 思考・表現 | 59.4% | 40.3% | 38.9% |
| 全体    | 61.4% | 57.5% | 51.9% |

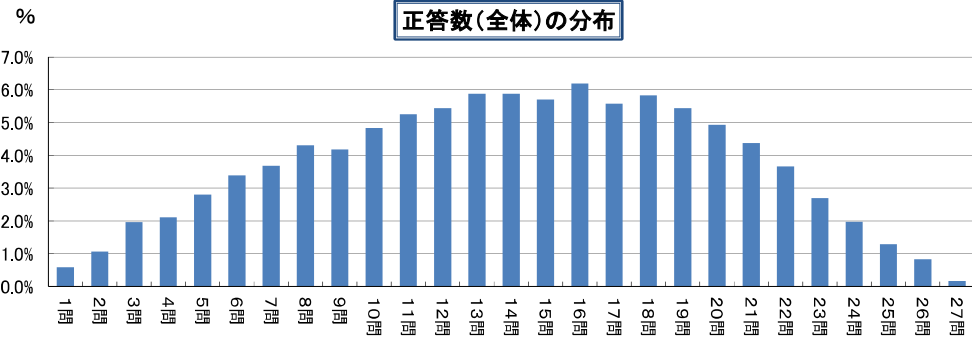
正答数(基礎・基本)の分布



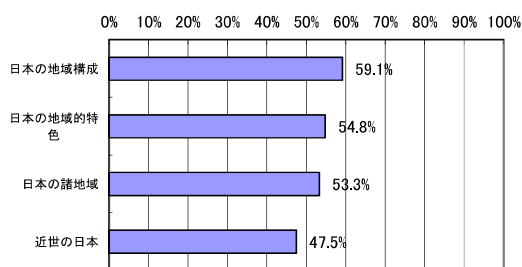
正答数(思考・表現)の分布



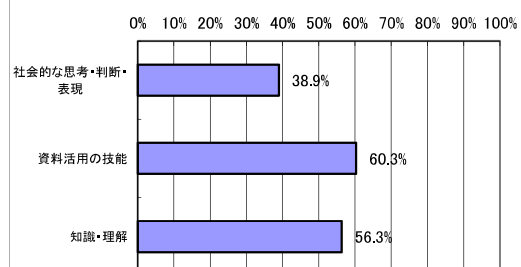
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



中学校第2学年

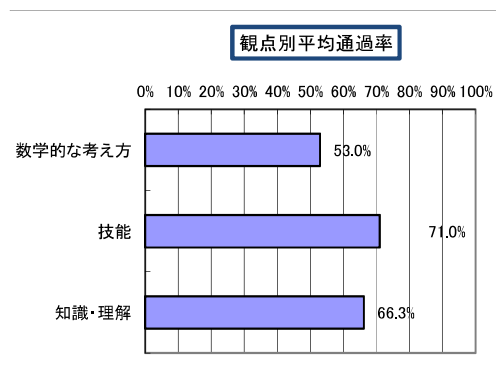
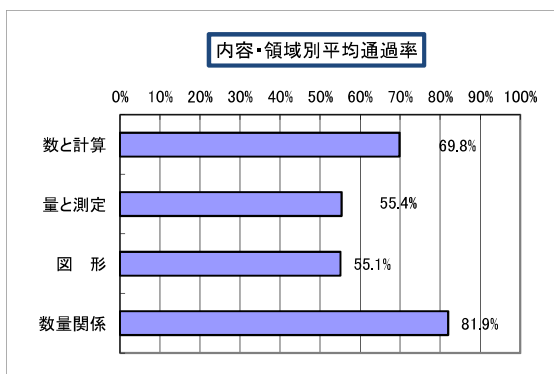
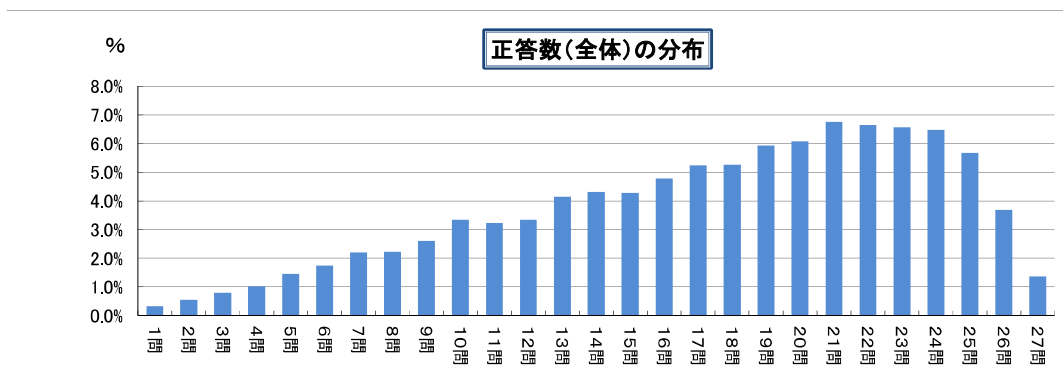
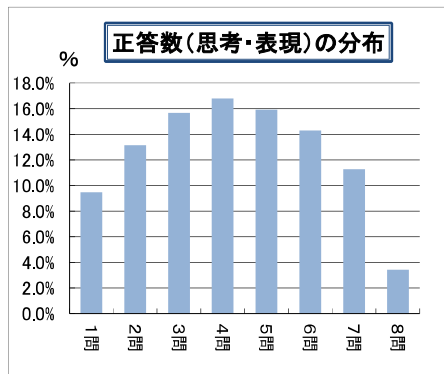
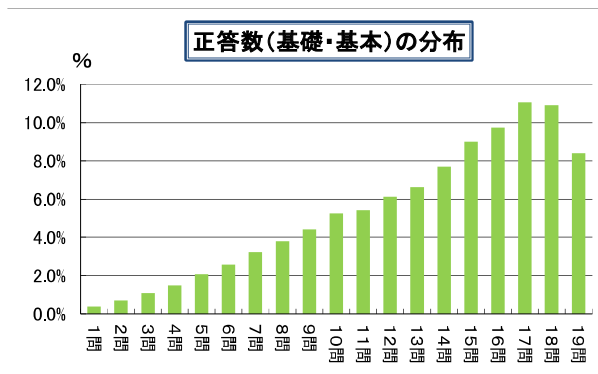
- 「基礎・基本」については平均通過率が 57.4%で、定着は十分ではない。特に、時差に関する問題のほか、桃山文化とその頃の作品や朱印船貿易とその特色など、関連する二つのことを答える問題の平均通過率が 5 割に満たず、課題である。
- 「思考・表現」については平均通過率が 38.9%で、定着は十分ではない。説明を記述する問題において、無解答率が 1 割を超えた問題数は昨年度より減ったが、水力発電所の分布を地形の特徴との関係で説明する問題や太閤検地の度量衡統一による変化を説明する問題では、平均通過率が 2 割に満たず、課題である。
- 考えをまとめたり、話し合ったりして知識・理解を深める授業を重視しつつ、地図・写真等の資料を活用し、社会的事象の特色等を事実と関連付けて理解できるように工夫したい。

(3) 【算数・数学】

小学校第5学年【算数】

学年別平均通過率

|       | 小5    | 中1    | 中2    |
|-------|-------|-------|-------|
| 基礎・基本 | 70.6% | 70.9% | 73.1% |
| 思考・表現 | 48.8% | 47.7% | 53.3% |
| 全体    | 64.2% | 64.0% | 66.5% |



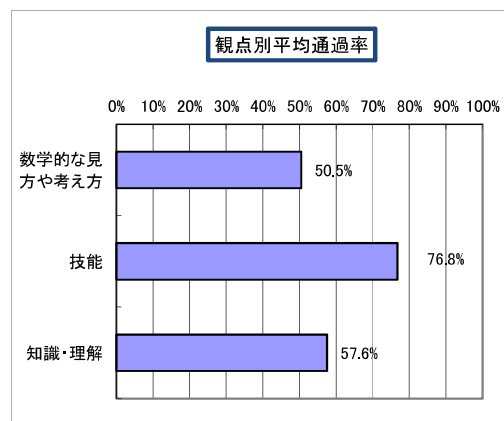
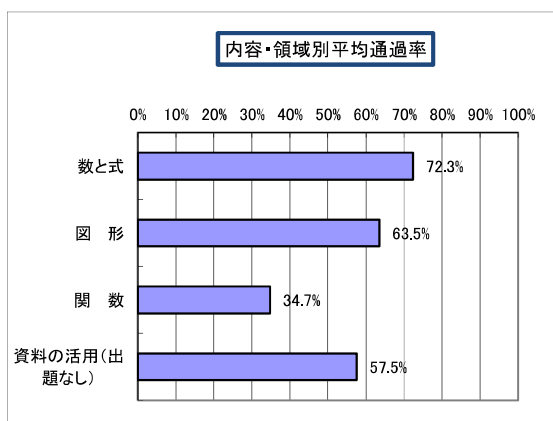
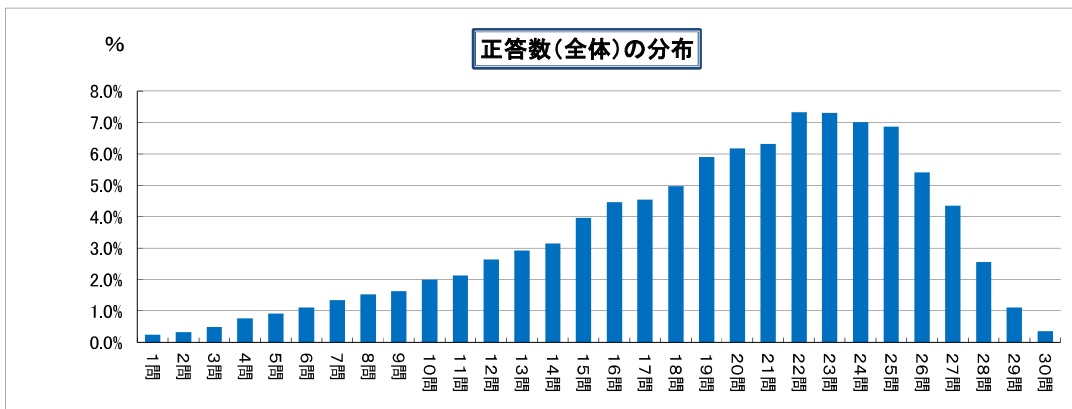
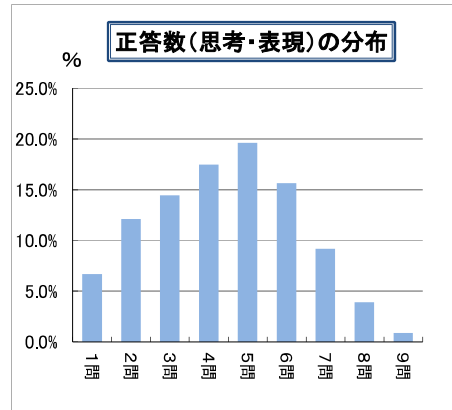
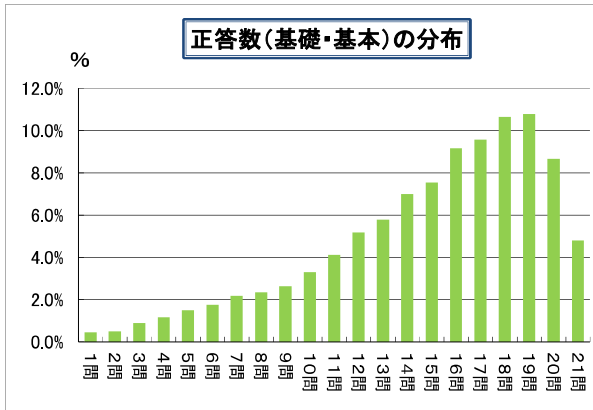
小学校第5学年

- 「基礎・基本」については、平均通過率が70.6%である。平均通過率が6割に届かない問題もあり、課題が見られる。特に、最小公倍数を利用した問題、平均の考え方をを用いて求める問題に課題がある。
- 「思考・表現」については、特に、単位量当たりの大きさの考え方をを用いて、言葉や数、式を使って説明すること、2直線が平行になることや二つの三角形の面積が等しいことを筋道立てて説明することに課題がある。
- 問題場面から数量を読み取り、言葉、数、式、図、表などを用いて整理し、筋道を立てて考えたことを表現したり、説明したりする学習活動を工夫・充実させていくことが必要である。

中学校第1学年【数学】

学年別平均通過率

|       | 小5    | 中1           | 中2    |
|-------|-------|--------------|-------|
| 基礎・基本 | 70.6% | <b>70.9%</b> | 73.1% |
| 思考・表現 | 48.8% | <b>47.7%</b> | 53.3% |
| 全体    | 64.2% | <b>64.0%</b> | 66.5% |



中学校第1学年

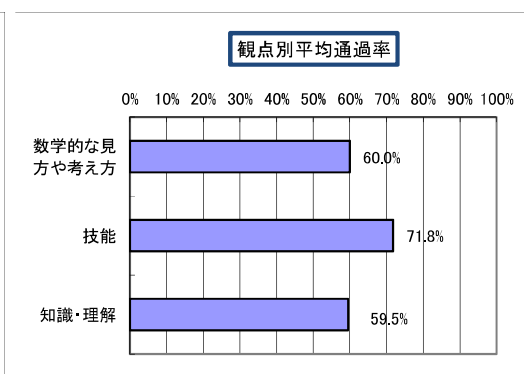
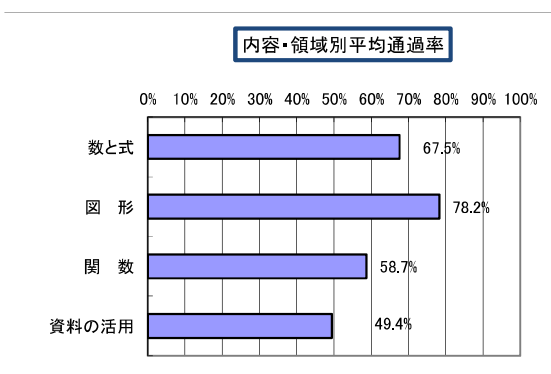
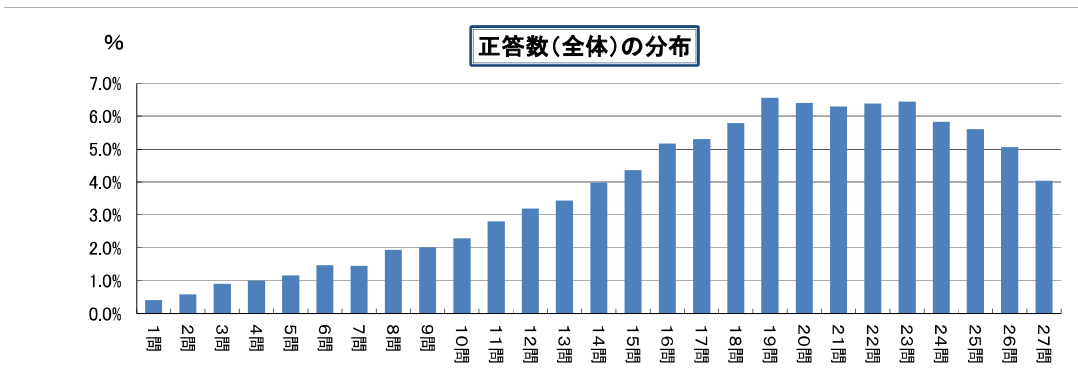
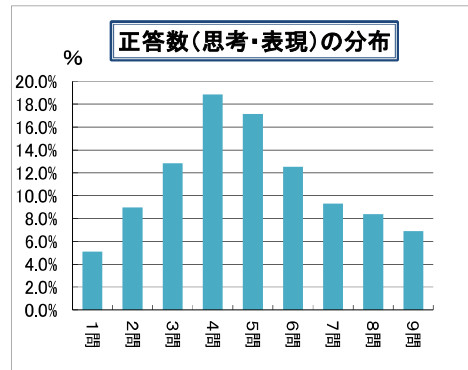
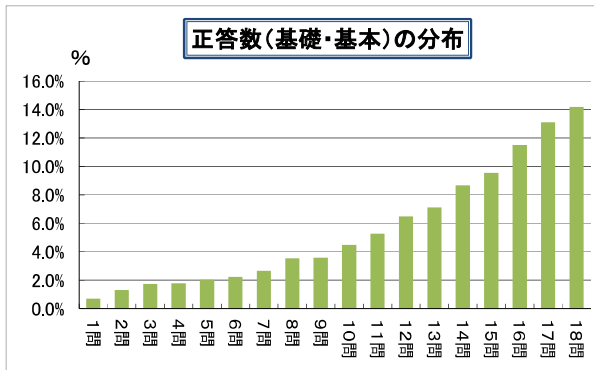
- 「基礎・基本」については、平均通過率は 70.9%である。自然数の正しい理解や問題場面を不等式に表すこと、平行移動、簡単な割合を求めることなどに課題がある。
- 「思考・表現」については、計算過程を説明する問題については無解答率も高い。また、規則性を読み取り、数量を求めたりすることに課題がある。与えられた条件を基に図形の軌跡やその長さを考える問題について平均通過率が低かったが、問題場面を正しく捉えられていないことも考えられるので、実態を踏まえた指導が必要である。
- 与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、解決させる活動や数、式、図等を用いて理由を説明、記述させる活動に取り組ませることが必要である。



中学校第2学年【数学】

学年別平均通過率

|       | 小5    | 中1    | 中2           |
|-------|-------|-------|--------------|
| 基礎・基本 | 70.6% | 70.9% | <b>73.1%</b> |
| 思考・表現 | 48.8% | 47.7% | <b>53.3%</b> |
| 全体    | 64.2% | 64.0% | <b>66.5%</b> |



中学校第2学年

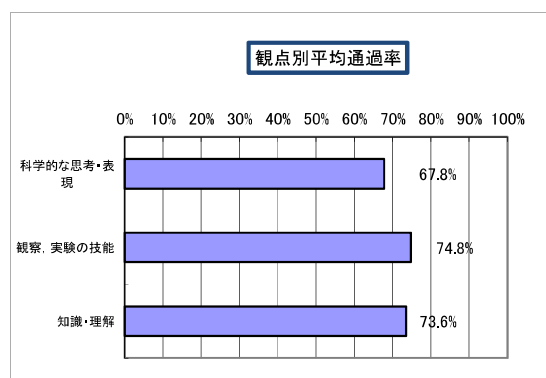
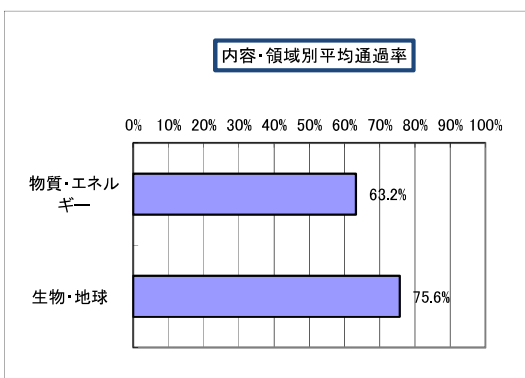
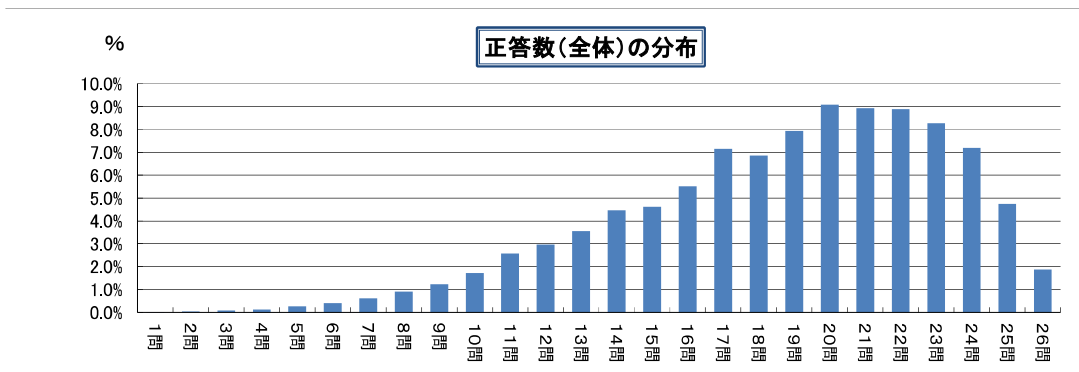
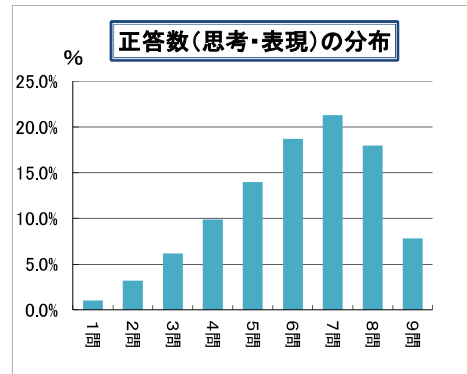
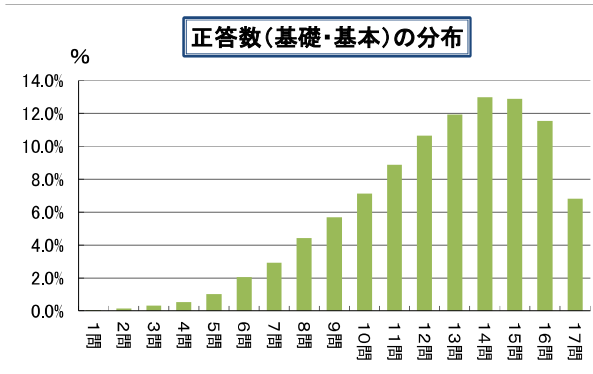
- 「基礎・基本」については、平均通過率は73.1%である。等式の変形、比例のグラフの判断、反比例の立式には引き続き課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率53.3%である。特に、与えられた二つの資料を読み取り、判断した理由を言葉や数値を用いて記述することや具体場面を文字式で表したり、説明したりすることに課題があり、無解答率も高い。
- 問題場面から必要な情報や資料等を的確に読み取って解決させたり、判断の理由を言葉や数、式等を用いて数学的な表現を用いて根拠を明らかにし筋道立てて説明、記述させたりする指導が必要である。

(4) 【理科】

小学校第5学年【理科】

学年別平均通過率

|       | 小5    | 中1    | 中2    |
|-------|-------|-------|-------|
| 基礎・基本 | 73.9% | 54.5% | 59.8% |
| 思考・表現 | 67.8% | 46.4% | 43.1% |
| 全体    | 71.8% | 51.6% | 55.0% |



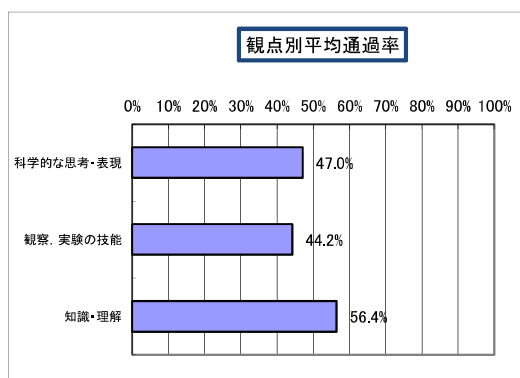
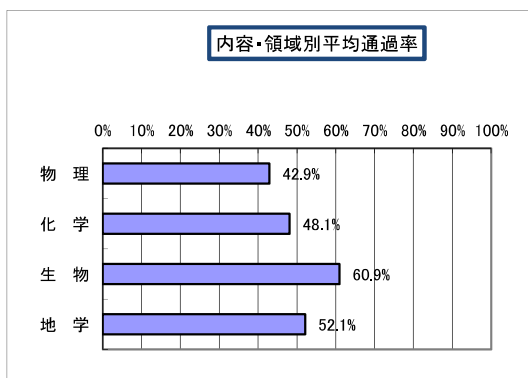
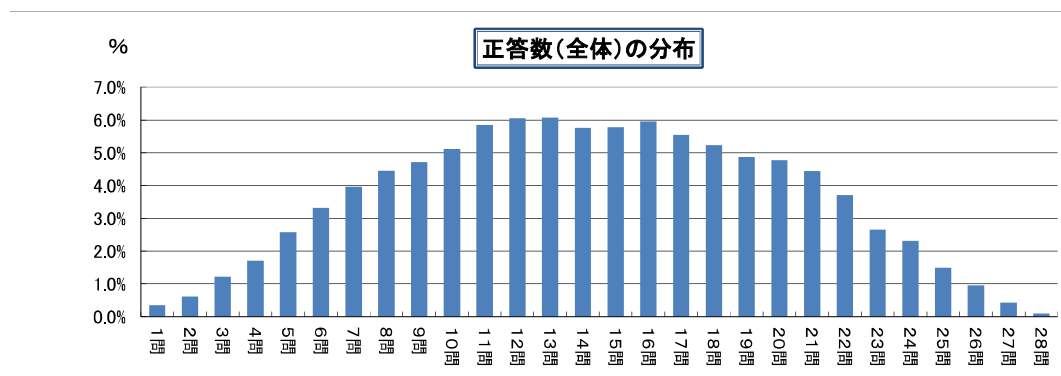
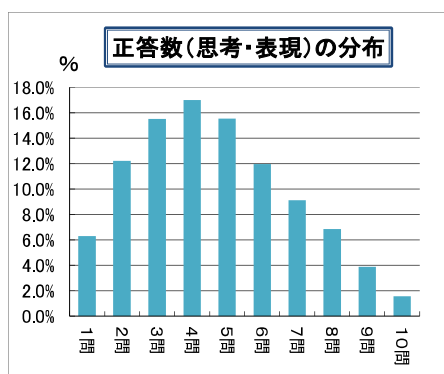
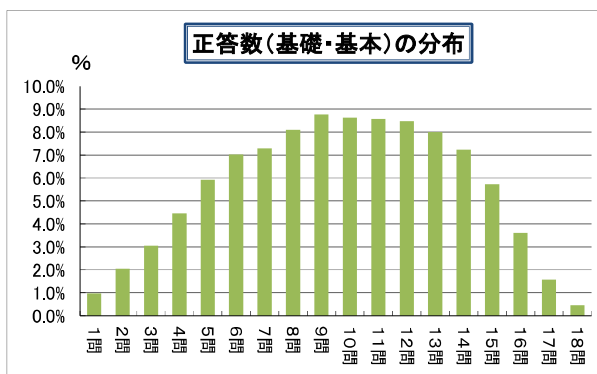
小学校第5学年

- 「基礎・基本」については、平均通過率は73.9%であり、追跡調査である顕微鏡の操作や気象衛星の雲画像と雨量との関係の問題については、平成27年度と比べて10ポイント上回っている。しかし、平成27年度全国学力・学習状況調査と同一問題であるメスシリンダーの使い方については、平均通過率は56.0%であり課題が解決されていない。
- 「思考・表現」については、平均通過率は67.8%である。追跡調査であるろ過した砂糖水をモデルで表す問題は、平成27年度と比べて16ポイント上回るなど改善が見られる。しかし、電流の強さを電気のはたらきに関係付けて説明する問題は、平均通過率は27.6%と課題が見られる。
- 児童が確かな見通しをもって、問題解決を進めていく授業を引き続き実施していくとともに、学習を通して獲得した知識を、実際の自然や日常生活に当てはめて考える活動を意図的、計画的に設定するなど、児童に「理科を学ぶ有用性」を実感させる指導を進めることが重要である。

中学校第1学年【理科】

学年別平均通過率

|       | 小5    | 中1           | 中2    |
|-------|-------|--------------|-------|
| 基礎・基本 | 73.9% | <b>54.5%</b> | 59.8% |
| 思考・表現 | 67.8% | <b>46.4%</b> | 43.1% |
| 全体    | 71.8% | <b>51.6%</b> | 55.0% |



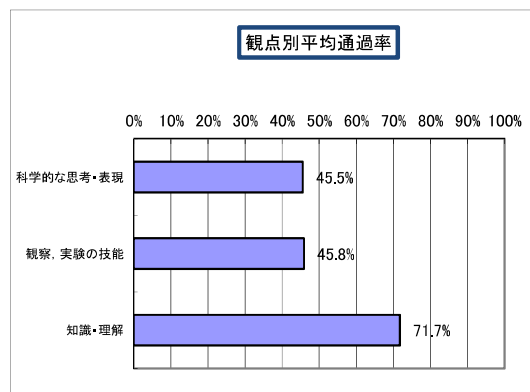
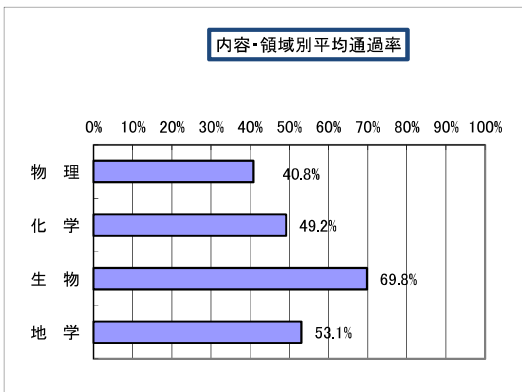
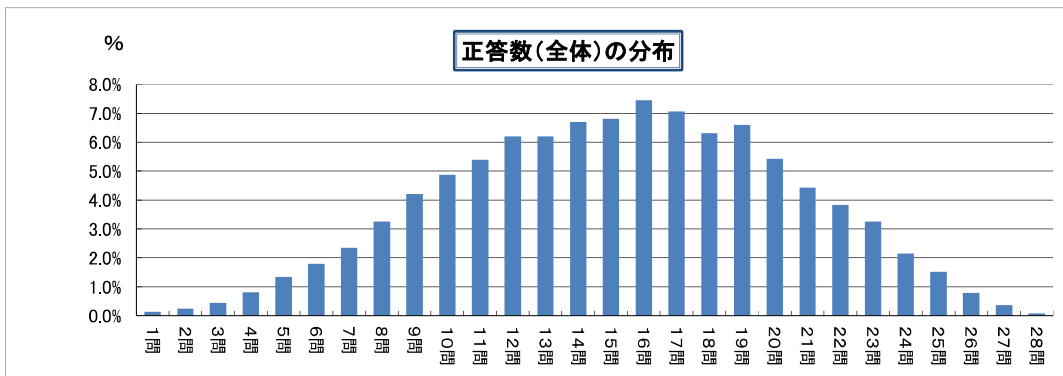
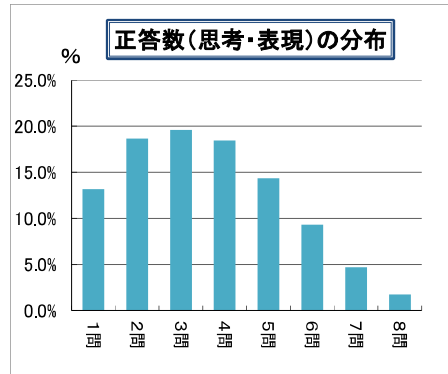
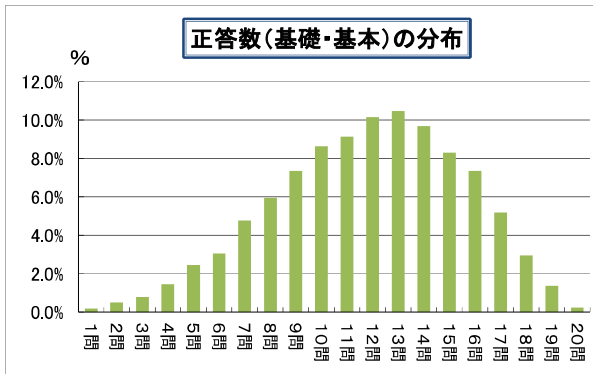
中学校第1学年

- 「基礎・基本」については、平均通過率は54.5%であり、特に、植物のからだのつくりや光合成のしくみ等の基礎的・基本的な事項についての理解がなされていない。また、メスシリンダーを使って物体の体積を測る問題の平均通過率は14.3%であり、追跡調査である顕微鏡の基本的な使い方については、平成27年度と比べて13ポイント下回り、小学5年生に出題した類題の平均通過率も大きく下回るなど、昨年度までの課題が継続している。
- 「思考・表現」については、平均通過率は46.4%であり、定着は十分ではない。追跡調査である状態変化の様子をモデルで表す問題の平均通過率は、平成26年度と比べて28ポイント上回るなど改善が見られるが、光が凸レンズに入るときと出るとき境界面で、それぞれ屈折していることを作図する問題の平均通過率は20.6%と課題が見られる。
- 家庭学習と組み合わせる工夫を行うなど、単元の導入の際には、今まで獲得した知識・技能を振り返る場を意図的に設定して、基礎的・基本的な事項を確実に定着させたい。また、実験器具の操作については、教科書の「基礎操作」の内容を確実にさせるとともに、パフォーマンステスト(実技テスト)を取り入れるなど、実験、観察の技能を高め、習得させることが重要である。

中学校第2学年【理科】

学年別平均通過率

|       | 小5    | 中1    | 中2           |
|-------|-------|-------|--------------|
| 基礎・基本 | 73.9% | 54.5% | <b>59.8%</b> |
| 思考・表現 | 67.8% | 46.4% | <b>43.1%</b> |
| 全体    | 71.8% | 51.6% | <b>55.0%</b> |



中学校第2学年

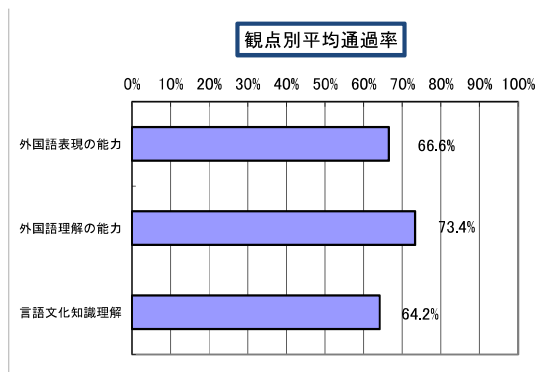
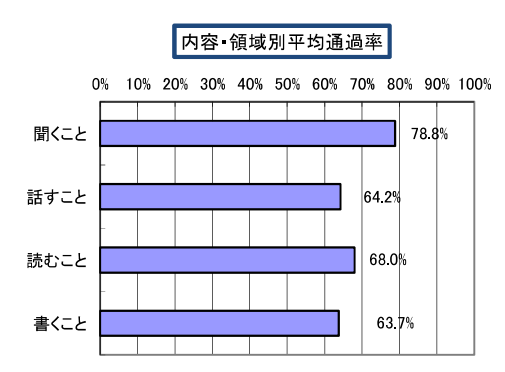
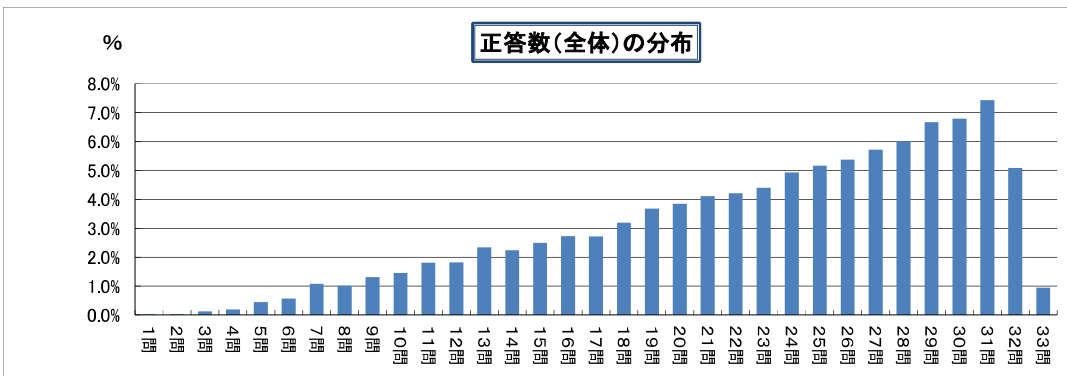
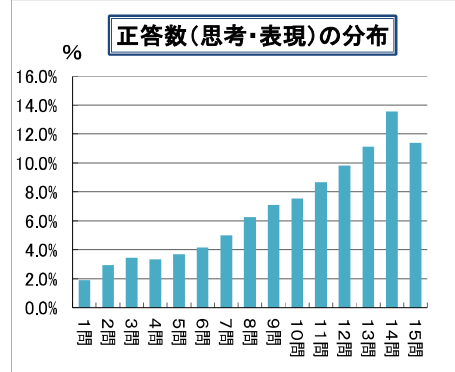
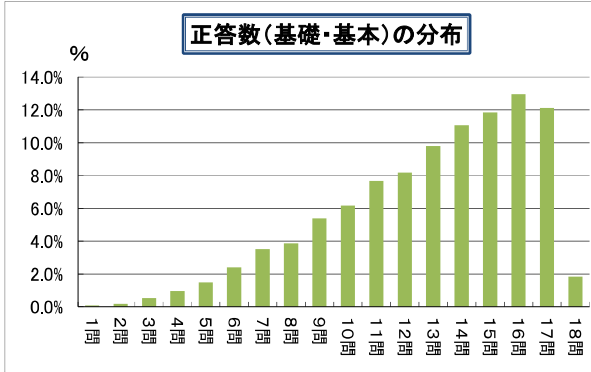
- 「基礎・基本」については、平均通過率は59.8%であったが、追跡調査である緊急地震速報の仕組みについての問題は、平成27年度と比べて48ポイント上回るなど大きく改善が見られ、知識・理解の観点については平均通過率が高い。しかし、銅を繰り返し加熱した実験のグラフをかき問題の平均通過率は25.9%、天気図の等圧線から気圧の大きさを読み取る問題の平均通過率は6.2%であるなど、設問によっては課題が見られる。
- 「思考・表現」については、平均通過率は43.1%であり、定着は十分ではない。酸化銀の分解を原子・分子モデルで表す問題の平均通過率は35.7%、物体がおよぼす圧力を求める問題の平均通過率は17.3%と、課題が見られる。
- 銅を繰り返し加熱する実験のグラフのかき方や等圧線の読み方、酸化銀の分解を原子・分子モデルで表すことなど、平成28年度から使用する教科書の内容に沿って、生徒にどんな力を付けるのかを明確にした授業計画を立てることが必要である。また、観察、実験の結果から、一人一人が十分に思考した上で、グラフをかかせたり、話し合っって自然の現象をモデルで対応させたりするなど、自分の考えをよりよいものに練り上げていくような場面を設定することが重要である。

(5) 【英語】

中学校第1学年【英語】

学年別平均通過率

|       | 中1    | 中2    |
|-------|-------|-------|
| 基礎・基本 | 71.3% | 72.3% |
| 思考・表現 | 67.6% | 39.8% |
| 全体    | 69.6% | 57.4% |



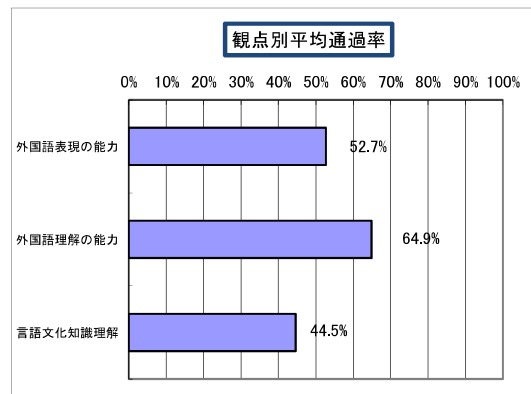
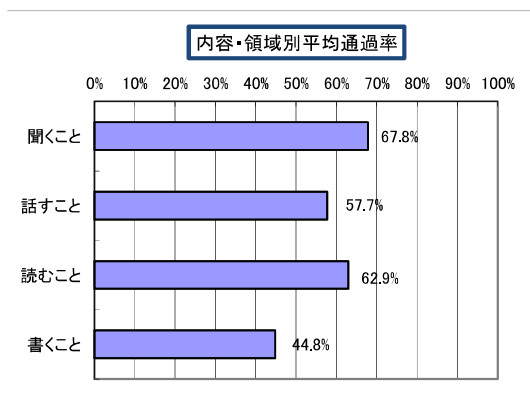
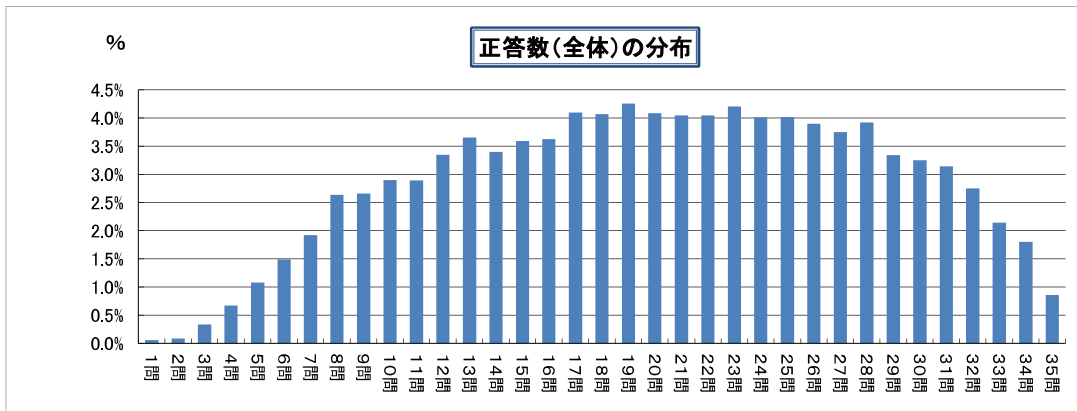
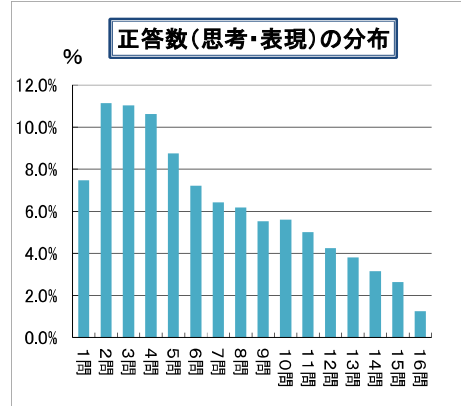
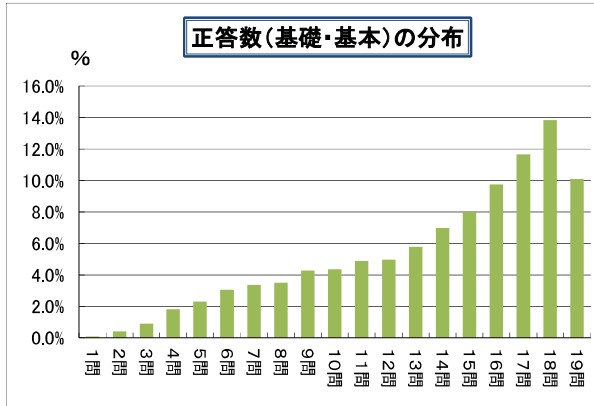
中学校第1学年

- 「基礎・基本」については、平均通過率が71.3%である。特に、対話文中の人物の応答を読んで、[人称代名詞+be動詞+補語]の疑問文を作成する問題の平均通過率が31.8%、thisの形容詞的用法(This bag is new.)の英文の語順を答える問題の平均通過率が5.5%で、課題が見られる。
- 「思考・表現」についても、平均通過率67.6%と概ね定着が図られているが、まとまりのある英文を読んで、登場する二人の人物の関係性を問う英語の問い[be動詞+(複数の人名をandで結んだ主語)+補語+?]に対する答え方として、代名詞theyを用いて答える問題の平均通過率が34.9%であり、課題が見られる。
- 身近なコミュニケーション場面を設定して、学習した語や表現を実際に活用する活動を充実させ、繰り返し使用する中で、着実な定着を図りたい。また、長文中の指示語に着目して内容を的確に理解したり、読み取ったことを適切に表現したりする活動を積極的に取り入れたい。

中学校第2学年【英語】

学年別平均通過率

|       | 中1    | 中2           |
|-------|-------|--------------|
| 基礎・基本 | 71.3% | <b>72.3%</b> |
| 思考・表現 | 67.6% | <b>39.8%</b> |
| 全体    | 69.6% | <b>57.4%</b> |



中学校第2学年

- 「基礎・基本」については、平均通過率が72.3%である。特に、前置詞 before の働きに注意して長文の内容を正しく読み取る問題が34.7%と課題が見られる。
- 「思考・表現」については、平均通過率が39.8%である。リスニングにおいて、時間の長さに関する対話を聞き取って合計した時間を答える問題が27.5%、長文を読んで、前後の文から理由を捉えて日本語で説明する問題が19.8%、時制に注意しながら文脈に沿った適切な動詞を使って英文を完成させる問題が24.9%で課題が見られる。また、手紙文を読んで、相手の意図に対応する英文を三文作成する問題について、三文まで書けなかった割合が29.3%と高い状況である。
- 長文を読んで、情報や人物の考え等の概要や意図を伝え合う活動や、基本的な動詞及び前置詞の働きを理解した上で、コミュニケーション場面を設定して、いろいろな表現を工夫し活用する活動に取り組ませたい。